

# シルバー ひの

2015.1  
第188号

交流の窓、こんな仕事…、連載「蕎麦の話」、私のふるさと



手芸作品「手まり」

楯 まゆみ (南が丘・南平台班)

公益社団法人 日野市シルバー人材センター

〒191-0011 東京都日野市日野本町2-4-7 TEL 042-581-8171 FAX 042-584-8390  
ホームページ <http://www1.hinocatv.ne.jp/hsc/index.html> E-mail [hsc@mail.hinocatv.ne.jp](mailto:hsc@mail.hinocatv.ne.jp)





第四幼稚園入り口前

昨年夏ごろ、事務局から本誌編集部にこんな話がありました。「幼稚園の用務をしている就業会

## 「顧客満足度」にかなう シルバー就業者の模範

幼稚園用務作業の

井上 秀雄 さん(71)

(百草台班)

ちやうどおどろきまじり帯お  
(文芸の窓)

員で評判の人がいるんですよ。一度取り上げてみては？」

### 園長先生の信頼厚く

そこで9月のある日、石田の第四小学校に隣接する第四幼稚園に井上秀雄さんを訪ねました。

お昼休みに合わせました。出迎えた井上さんは直ぐ席をはずし、代わりに園長の国栖章子先生が応対してくださいました。

「井上さんはこれから園児たちとお昼を一緒に食べます。ほんとうに子ども好きの方で、園児たちからも好かれているんですよ」

国栖先生はさらに、「井上さんはいつもこやかで、どんな仕事も几帳面にきびきびとこなしています」と付け足されました。

井上さんの就業時間は、午前8時から午後4時まで。朝7時40分には来ます。カギ開け、各室の窓開け、職員室の清掃、園児用のお茶(ムギ茶)の用意。次いで門や庭の掃除、植木の剪定に草取り。午後2時に園児が帰ると、ホールやトイレの清掃も。

「木の枝の伸びが早く、庭の作業が多いですね。雨の日は庭に出ませんが、各部屋の窓ガラス拭きをします。他にやる事は一杯あります」と井上さんは笑います。

井上さんは健康にも恵まれ、ここでの就業1年半で、休んだことは一度もありません。

この幼稚園の用務作業は以前から当センターが委託を受け、会員2人がローテーションで就業しています。井上さんが月・木・金曜日、同僚の会員が火・水曜日を担当しています。

### 「カメラの市川」

#### 46年が下地に

当センターで会員の就業態度を問題にする場合、「顧客満足度」という言葉が使われてきました。センターの事業拡大のためには、会員一人ひとりが「いい仕事をしてお客様に満足していただく」ところが肝心だ、という意味です。

この点、井上さんは「顧客満足度」にかなう模範的な就業者の一人と言えそうです。その秘訣を井上さん自身、こう語ります。

「私は、高幡不動駅前写真店



園児たちと会食する井上さん

「カメラの市川」の最初の社員で、66歳で退職するまで46年間、勤め上げました。初めの頃は泊まり込みで、写真屋の仕事は何でも手がけ、こなすようにしました」

「会社や学校などに出かけ、記念写真等を撮る仕事も無数にやりました。幼稚園に撮影に行くこともしばしば。幼稚園の先生や園児たちとも仲良くなりました」

そのうち、ある幼稚園の先生から「定年後はぜひ用務員で来てください」と言われたことも。「今その夢がかなって幸せです」と井上さんは目を細めていました。



こんな仕事を  
しています



## 《家事援助グループ》

信頼関係で楽しく仕事

三木 百代(元)(落川・百草班)

あなたは「家事援助」と聞いてどんな仕事だと想像しますか？

「炊事、洗濯、掃除」……そうです、ね、家の中にかかわる仕事です。「主婦なら誰でも出来る？」いえいえ、そう簡単ではありません。私も保母や病院の介護手をやり、どの仕事にも「掃除」はありました。シルバ－人材センターに入っても「掃除は出来る」と思っていました。

しかし、「家事援助いかがですか？」とセンターから言われたとき、「ウーム」と考えてしまいました。「個人のお宅に入り掃除洗濯、しかもその家の方が見ているイヤだなあ」という印象でした。でも、恐るおそる始めてみると、信頼関係ができ、楽しく仕事ができるようになりました。

また、いろいろな方々が家事の援助を必要としている事も分かつ

てきました。高齢の方、子育て中の方、お店で営業の方など、家事

に手が回らない方々がいたので、始めて半年ほどで、事務局の伊藤さんから「研修会に参加するよ」にとの連絡があり、柏江の研修会に参加しました。そこでプロの方から掃除の基本、手順、汚れの種類、家庭訪問時のマナー、クレーンへの対応、仕事をしながら経験を積むことの大切さを学びました。実技もあり「セミプロで良い、自信をもって仕事をする事」を教えられました。

家事援助グループでは、現在21名の仲間たちが各ご家庭の要望に合った仕事に動んでいます。この道15年のベテランの先輩たちが築いてこられたご苦労の上に、今の家事援助グループがあるのだと思います。

それぞれ働いている時間が違う

ので、仲間相互の情報交換がなかなか出来ませんでした。女性委員会の渋谷さん、事業委員会の徳田さんや栗山さんのお力添えで11月29日、家事援助グループの交流会が開かれました。

交流会にはグループのメンバー13名が参加しました。前にのべた女性委員会と事業委員会の役員さん、さらに事務局の伊藤さんにもご出席いただき、総勢17名で話し合いました。皆さん、ご自分の体験や困っていること、悩みも出し合い、大変よかったです。

女性会員がもっと増えて、家事援助グループとして発展すれば、これからの少子化、子育て支援、高齢化社会対策の一助になるのではと期待しています。

女性会員の皆さん、一緒に「家事援助」をやりませんか！

連絡先：事務局(担当・伊藤)

☎58118171

## 家事援助グループ とは？ 収入は？

当センターの家事援助グループは、平成11年に25名ほどの「懇親会」の形で発足。その後、職群グ

ループ「家事援助」となり、仕事の依頼がある度に事務局から連絡を受け、常時12〜13名が就業するという状況が続いてきました。

最近、事業委員会(のち業務委員会)、女性委員会の援助で、規模は20数名まで増えました。コ－ディネーターの設置がかねてからの課題です。

収入については、就業会員のアンケート(昨年10月)によれば、「希望収入2万円」が最多。月20時間見当の就業になります。



家事援助グループの懇談会 (H26. 11. 29)



# ソバリエが語る蕎麦の話

## 第1回 弥太郎と蕎麦

いきいきカルチャー教室  
「ソバリエになろう」講師

うんの  
**海野靖雄(69)**  
(多摩平1班)

\*ソバリエとは、蕎麦のソムリエのことです。

会員の  
ページ



本名・小林  
信之、通称・  
弥太郎は、信  
州北部の霧  
下そばの名

産地、柏原村の農家に生まれた。  
家では、蕎麦も蒔いていたはずだ。  
江戸時代を代表する俳諧師、小林  
一茶のことである。

一茶が育った柏原村は北國街道  
に面する宿場町で、加賀前田藩の  
大名行列が通るとき、村人たちは

総出で蕎麦を打つ。

雪ちるや 御駕籠へはこぶ

二八そば

しなのじや そばの白さも  
ぞっとする

柏原村のある信濃路は、蕎麦の  
白い花を見ても「雪五尺」の豪雪  
を想像してか、「ぞっとする」よ  
うな雪国であった。

国がらや 田にも咲する

そばの花

転作の奨励で田にもソバをまく  
のが「お国がら」であり、

馬引きよ そばの世並は  
どれくらい

馬の背にソバを乗せた馬子(ま  
ご)に、世並(作柄の良し悪し)  
を問うている。

江戸に出て来た一茶が「新そば」  
の季節を迎えるや、

そば時や 月の信濃の

善光寺

と、「田毎(たご)の月」や  
故郷に近い「善光寺」に思いを馳  
せる。その一方、

風鈴や ちんぶんかんぶんの  
年の暮れ

江戸では「夜そば売り」が、屋  
台に風鈴をぶら下げる「風鈴そば」  
が流行していた。その様子を、  
「ちんぶんかんぶん」と詠んでい  
る。季節を大事にする俳人にとり、  
真冬に夏の風鈴をぶら下げる光景  
を許せなかったのだろうか。  
そして、この句はどうか。

そばの花 江戸のやつらが  
何知って

生涯で2万2千句を詠んだとい  
われる一茶の句の中で、蕎麦を詠  
んだものはわずか20〜30句でしか  
ない。一茶にとり蕎麦とは「粋な  
食べ物」ではなく、故郷の産業で  
あり、生きる糧としてのそれだっ  
たのかも知れない。しかも一茶の  
句には、蕎麦の「慈味」や「禅味」  
を愛する表現は見当たらない。だ  
からといって、一茶が「そば嫌い」  
だったと考えるのは早計である。

日記には「となり夕そば」「隣  
りそば」など、隣家の弟・仙六の  
家に招かれて妻のキクと蕎麦を食  
している記述が多々ある。句中に  
は蕎麦を愛するゆえに蕎麦を案ず

る、柏原村の一人の農夫・弥太郎  
が一茶の陰にたたずんでいる。

多摩平の森「さくら集会所」では  
昨年9月11日、「そば打ち教室」  
が開かれ、海野さん(写真中央右)  
が講師を務めました。



\* 著者は、当センター「いきいき  
カルチャー教室」平成26年度後  
期の「ソバリエになろう」エッ  
セイを書こう」の2教室の講師  
です。



**今年、開講10周年**  
 ～「いきいきカルチャー教室」の一翼～  
**懐メロ・童謡教室**  
**「きずな」**  
 指導 **村上悦子**先生(西平山2班)  
**森川琉子**先生(日野4班)

♪更け行く秋の夜 旅の空の  
 わびしき想いに ひとりなやむ  
 昨年の10月16日(木)市内多摩  
 平の住宅街にある「愛隣舎ホール」  
 から明るく、元気な歌声が聞こえ  
 てきます。  
 ♪恋しやふるさと 懐かし父母  
 夢路をたどるは さとの家路  
 今日、懐メロ・童謡教室「き  
 ずな」の練習日。ホールには会員  
 40名が集い、練習の真っ最中。  
 歌唱指導は村上悦子先生、ピアノ  
 伴奏は森川琉子先生。



今日の練習曲は、「やしの実」  
 から「修学旅行」までの10曲、練  
 習時間は13時～15時まで2時間。  
 熱心な練習が続きます。  
 途中10分間の休憩タイムには、  
 先生差し入れのお菓子で一寸一服。  
 やがて、練習終了の15時、最後  
 の曲は村田英雄の「無法松の一生」  
 をCDの曲にあわせて、全員で合  
 唱し終了しました。

■「きずな」の歩み  
 2005年春、村上、森川両先  
 生が中心となって、「大正・昭和  
 という激動の時代を生き抜いてき  
 た皆さん、懐メロや童謡、唱歌を  
 心の奥底から歌ってみませんか、  
 歌を歌うことは、心と身体を元気  
 にします。私たちと一緒に歌いま  
 しょう」と人材センターの自主事  
 業として、懐メロ・童謡教室「き  
 ずな」を立上げました。  
 「きずな」の開講日は、同年4  
 月7日、場所は愛隣舎ホール。ホー  
 ルの中央には、先生からの提言が  
 大きく掲げられていました。



「教室」での練習

- ① 歌で心と身体を結ぶ「きずな」
  - ② 歌は心と身体を元気に
  - ③ 笑顔から貰える元気
- この三つの提言が10年間「きずな」  
 の支えとなっています。

■目標に向かって  
 一年間の集大成として、今年も  
 8月7日(日)煉瓦ホールで開催  
 される「童謡と唱歌のフェスティ  
 バル」に参加します。  
 ■これからも息長く  
 村上・森川先生からのメッセージ  
 「皆さんに愛され、親しまれ、育  
 てていただいた「きずな」は今年  
 4月元気に10周年を迎えます。  
 あっという間の10年でしたが、  
 これからも、歌を愛する皆さんと  
 一緒に楽しく歌い続けます」  
 ■入会希望の方へ  
 「きずな」に入会を希望される  
 方は左記へお問合わせください。  
 村上悦子 (Tel 582-0756)  
 森川琉子 (Tel 583-8017)



第9回童謡と唱歌のフェスティバル (H26. 6. 1)



# 会員の声

## 思い出・自分史DVD 作りからビジネスへ

岡田 寛(66)

(三沢2班)

シルバーに入ってから丁度2年、目的はなるべく多くの人と仲間を作ることでした。毎月の「月刊さわやか」折り込みの「就業情報」は斜め読みしていました。そんな折、リビンクサポート班の「ビデオムービーの撮影や編集が得意な方」の募集チラシが目にとまり、還暦前頃から個人的に始めていたDVD制作が何らかの形で生かせるのではないかと思い、応募しました。

孫用に初めて買ったビデオカメラ付属の編集ソフトを使うと、いろいろな事が出来ることがわかりました。これまで作ったDVDは、孫の写真等を集めた誕生記・成長記、友人達との旅行記など20作品くらい。代表作は「寛爺のハゲを科学する」。代表作は「寛爺のハゲを科学する」。「美女と野獣たち」。各



代表作DVDのジャケット

20分と10分。これらを一言でいうと、「思い出・自分史のDVDビデオ制作」になります。

昨年3月、リビンクサポート班の映像チームに、八王子の某幼稚園から卒園時の「歌や劇の会」を撮影し、これをDVDにしてほしいとの要請があり、チームの4人で挑戦しました。

一人が舞台裏で録音、3人が会場の中央・上手・下手でビデオカメラを構えました。撮影位置を指定されただけで、劇の内容を事前に把握することなく、またカメラ同士の連携不備というより連携させた編集作業の不慣れで、出来映えは今ひとつ。それでも1枚1500円で16枚も買っていたときまま。さらに、園の開催予定行事

の撮影も頼まれ、自己流撮影・編集に陥らないよう目下勉強中です。映像チームは、シルバーのビジネスとして、「自分史ビデオ」の制作をも目標にしています。家庭に眠っていると思われる写真等の整理、個人・仲間同士のイベント等の映像化のお手伝いも手掛けます。近隣、友人・知人への声かけをお願いしたいと思います。

映像チームの新しい企画の一つとして挑戦しているのが、日野市周辺の民話・昔ばなしを題材に、電子紙芝居としてDVDビデオに仕上げることです。販売相手・方法など課題は山積みです。

## 遥かな思い出——英語で 仕事、今も楽しむ



本田 英子(78)

(豊田班)

28年間の職業生活で、立川・横田両米軍基地での10年間は楽しかった。今から30年前のこと、辞めて20年になる。

基地の軍人人事課では、常駐す

る米軍人家族の旅券や新生児の出生証明書英文タイプで作成した。日本人は細かく分かれた部門に一人ずつで、英語しか話してはいけなかった。(大学英文科卒の自分に、一応の基礎力はあった。)

それでも、FEN(機東放送網)のラジオ放送で英語力を上達させようとした。最初は苦勞したが、1年ほどすると慣れた。

朝は7時半に始まるので冬は辛かったが、午後4時過ぎには帰れるので、思春期の息子を抱えた私には好都合だった。

軍人たちは私たち日本人にたいへん親切だった。でも、国内の公務員待遇なので、テストを受けて高い地位を目指した。

最も大変だったのは、午前2時間で七大国内新聞の米軍関係の記事を英訳することだった。ただ、30年ものベテランの先輩が常に助けてくれた。

その後、退職しても、大好きな英語は続けている。英語のニュースを使った英会話や英米文学を読む。カルチャーセンターのクラスに週1回は出席して、ボケないように過ごしている。



### 退職して5年、北海道さいはての旅



近藤 絹子(65)  
(程久保班)

退職して5年。現役で活躍している20歳年下の友と2人で、8年前に退社して故郷の北海道・網走へ帰った先輩に会いに、ツアーを利用して出掛けました。

昨年10月14日、幸い台風一過、予定通り出発。しかし、着いた中標津空港はどしゃぶり。

バスで摩周湖の伏流水が流れ込む「神の子池」へ。傘をさして散策。あとは一路、宿泊先へ向かいました。宿には、何と私達より先に車で峠越えをした先輩が、すでに待っていてくれました。

温泉にも入らず、夕食もとらず、宿の部屋で夢のような再会。この上ない幸せな時間でした。8年前また必ず会いたいと羽田で見送ったその後、お互いの母の介護や他



界、家族の病の話など。その逆に、家族とゆったり過ごす楽しい生活の話等々。記念の写真をとり、深夜、どしゃぶりの中、先輩は網走へと帰りました。

元気でいればまた逢えるサー。また会える日を楽しみに！

一夜あけ翌日は快晴。近くて遠い国、国後島を見ながら、娘のような友が「近ちゃん、知床旅情を歌おうよ」。大声で歌いました。

楽しい旅も終えて帰宅すると、近所の友人に土産話をと寄りまし

### カルチャー教室で「健康麻雀講座」を開講



浜田 茂(62)  
(三沢一班)

「ロン！ それアタリです。見て見て、とてもいい手なのよ」

いきいきカルチャー教室の「はじめの健康麻雀一講座では、屈託のない明るい声飛び交います。皆さんは麻雀にどのようなイメージをお持ちですか？ 賭け事、徹夜麻雀、小説「麻雀放浪記」の世

た。和歌を嗜むその友人から渡された歌に、はっと我に返りました。

一泊の旅すら我はままならぬ  
三泊もする旅へ友行く

地域を愛し、友を大切に平凡な日常に感謝し、年を感じつつもまだ若いと慌ただしく過ごす日々ですが、健康に気を付けて生活したいと深く思いました。初日は雨だったけれど、後は寒いながらも天候に恵まれ、一足早い紅葉と青い空。満足の旅となりました。

界ですか？ およそ健康とはかけ離れたイメージをお持ちの方も多いかと思います。

でも昨今は、麻雀ゲームが脳の活性化に有効と見直されています。「賭けない・飲まない・吸わない」を合言葉に、多くの方が健康麻雀を楽しまれています。

私は、一昨年11月にシルバー人材センターに入会し、すぐにリビングサポート班でのお仕事をいただきました。そして昨年4月から、カルチャー教室で健康麻雀の講師をしています。カルチャー教室の講師募集のチラシを見て、麻

雀歴なら半世紀、日曜大工も大好きな私は、早速手作りした麻雀卓を持参し、模擬講座を経て講座開催を認めていただいた訳です。

健康麻雀はマナーが大切です。この講座では単に麻雀ゲームを理解していただくだけではなく、誰でも楽しく麻雀が出来るようにマナーの大切さを学んでいただいています。機会があれば皆さんにもぜひ健康麻雀をお勧めします。リビングサポートのお仕事と健康麻雀の講座で多くの方との出会いがありました。シルバー人材センターに入会したおかげで地域社会とのパイプが太くなり、大変に満足しています。



「健康麻雀」の教室＝講義のあと実戦



## 「健康づくり推進員」の活動

会員投稿

藤峰 賢宜 (71)  
(多摩平2班)

## 市から委嘱を受けて

知人の推薦で一日野市健康づくり推進員(以下、推進員)の委嘱を受けて一年半が経過しました。推進員は、日野市健康課のもとに市内2中学校区を単位に5グループあります。私が担当するのは多摩平・旭が丘地区で、第1グループです。

今までに参加した行事(イベント)は高尾山・紅葉探訪、府中の森・梅園散策、長沼公園・首都大学東京・学食体験など。ウォーキングを実施すると、参加者数は100名近くにのぼります。年齢は平均75歳くらい。少しハードではないかと思うようなコースでも、皆さん元気に歩きます。うっすらと汗を滲ませながら休憩場所に着き、青空の下お弁当を広げます。年間の活動は、ウォーキングが

ほぼ月に1回。推進員が各々のコースを実践(下見)して詳細な実行計画を立て、当日の参加者に配布する地図や前回イベント時の集合写真等を作成・整理します。

## 学食ウォーキングが人気コース

人気のコースは「学食」体験を組み込んだもので、中央大学、東京薬科大学の学食が規模が大きく評判が良いようです。過日のイベントでは東京大学の学食も体験してきました。また年に1度は多摩動物公園でガイドさんの案内のもと、珍しい動物との「ふれあいウォーキング」も実施します。その他、旭が丘にある「心塾」では健康講座やらくらく健康体操も開設します。推進員と保健師、体操インストラクターが一緒になって、健康講話、体操指導、うたごえ等

に当たります。

年度末には、年間行事について皆勤賞・精勤賞を設け、賞状と記念品を渡します。受賞者は主に常連参加者で、この賞が参加の励みの一つになっているようです。

## 寝たきりゼロ目指し

活動の目的は、高齢期の市民に對し、①寝たきりゼロを目指して一次予防に取り組む、②自分の健康の増進(自分の健康は自分で守る意識を高める)、③地域の健康づくり活動とそのお手伝い、④地域の声(楽しいイベントの要望等)を市へ伝達することです。

活動に当たっては、健康課と連携を密にし、月1回の定例会等で指導・助言を受けます。課の保健師も活動に同行し、参加者への安心と万一の場合の対応に備えます。いま各グループ共通の懸念は、いかにして「推進員」仲間を増やすか。自分が楽しくなければ楽しいイベントも、良い企画も生まれないとの心構えで、参加される皆様と楽しく活動しながら、仲間を増やしていこうと考えています。

## 『シルバーひの』7月号の原稿を募集します

●エッセイ テーマは自由。600字前後。

●思い出の旅 国内旅行、外国旅行は問いません。旅行案内ではなく、思い出や感想を。写真、地図付き。600〜800字。

●会員の声 生活、活動、就業を通しての意見・感想。内容・形式は自由。500字前後。

●私のふるさと 昔の郷里の思い出、変わった風習、美味しいたべもの等々、何でも結構。郷里の地名を明記。できれば写真付きで。600字前後。

●手記・随想 手記・随想等の投稿原稿は何でも歓迎します。600字まで。

●写真 投稿写真も歓迎します。テーマは自由。

※締切りは5月1日。掲載分には薄謝を差します。

※原稿受付は事務局(担当・岡)



## コーラスを楽しんでいます

インタビュー



米村 千賀子 (63)

(日野本町班)

入会2年半の米村千賀子さん。就業のかたわら楽しんでいる「コーラス」について大いに語っていただきました。(編集部)

現在、中央公民館で清掃業務をしています。2名体制のローテーションで週2日、7時から10時までの就業です。視力が弱く、事務職が困難なため、就業できる職種が限られました。

出不精で愛猫(19歳のオス)と昼寝をするのが大好きな私ですが、週に1回の外出を楽しみにしています。それは、18年前に日野市に引っ越してくるまで8年間住んでいた南大沢(八王子市)へコーラスの練習に行くときです。

## PTAの歌好きが集まり

このコーラスグループの始まりは中学校のPTA。歌好きな人が集まったのです。前々から歌い

たいとは思っていたのですが、主人の転勤や子育てでなかなか実現できずにいました。やっと南大沢に落ち着くことになり、このグループに参加しました。現在の名称は「シャイニーChoir」です。

メンバーは18名。仕事を持っていく方もいるので練習は夜になります。先生やお仲間が素敵な方たちなので、歌うことだけではなくお会いすることも嬉しく、足取りも軽く出かけます。

## 英語・ラテン語でも歌う

目が不自由で譜が読みにくい私のために皆さんが音取りをしたり、CDを用意するなど助けて頂きながら、思い切り歌っています。

レパートリーは合唱組曲や童謡、映画音楽など。宗教曲になると、英語だけでなくイタリア語、ラテン語、ドイツ語など原語で歌います。しかも暗譜です。

平成8年には南大沢文化会館のこけら落としの催しを、と私の所属するグループが声を掛けられ、第1回「コーラスフェスティバル」の立ち上げメンバーの一人になりました。

平成26年11月には第19回フェスティバルを開催しました。文字通り「コーラスのお祭り」。南大沢近辺の小学生、大学生、成人のコーラスグループが心から楽しんで歌声を披露しました。

## 日野の第九合唱にも参加

また、日野市のコーラス「コーラルファンタジーinひの」にも登録しており、年1回の「第九」に参加したりします。これは日野市が企画するオーケストラと合唱の音楽の催しに出演するというもの。登録している人が、公演の日程があれば参加費を払い合唱に参加します。

練習はいろいろな場所を借りながら百人近くの人が公演前の半年ほど毎日曜日の昼間集まります。

大作を演奏できるのが醍

醐味。私は平成24年12月の「第九」そしてソリストたちのアリア(ソプラニスタ岡本知高、テノール村上敏明らが出演)に参加しました。

声帯は、体の部分で最も遅く老化する器官だそうです。私はコーラスを、体が動く間(南大沢に通える間)はずっと続けていきたいと思っています。

(写真は米村さん提供)



コーラス・グループ一同(2012.5.19)



私は北海道十勝幕別町(帯広市の隣)で生まれました。24歳まで帯広に。上京して半世紀が過ぎました。景観、味覚、農作は「日本一の十勝」【注1】。



ふるさと十勝。北は大雪山系、西は日高山脈に囲まれ、面積は岐阜県

## 私のふるさと

日本の“食料基地”  
とちかち  
**北海道・十勝**

後藤 國 (80) (平山2班)

とほぼ同じ広さ(1万8千km<sup>2</sup>)、人口約35万人。1市16町2村で構成されています。

**世界唯一のぼんえい競馬**

大陸性の気候で、夏と冬の温度差は70度。四季を通じて様々な景観を楽しめます。冬は低温が続き

降雪量は少なく「十勝晴れ」といわれる晴天が続く、年間を通じても全国有数の日照時間に恵まれています。

十勝は日本の食料基地といわれ、道内でも特に畑作、畜産業が盛んで、多くの農作物は日本有数の生産量となっています。

十勝の歴史は、松前藩の「十勝場所」設置に始まり、明治16年



(1883年)に静岡県から入植した晩成社【注2】などによる民間の開拓移民が進められました。当時は食糧も欠乏し、沼の水草の実、野生の草などを食べました。開拓時代の伝統を今に引き継ぐ「ぼんえい競馬」【注3】は、世界で唯一十勝帯広で開催されてお

り、「馬文化」として北海道遺産に指定されています。

**「十勝観光大使」とは……**

こうして発展してきた十勝帯広も、時代とともに過疎化で人口の減少と財政の逼迫に見舞われています。そこで帯広を観光都市にしようとして、「帯広観光大使」を全国に委嘱して、帯広市のPRに力を入れてきました。この制度が「とちかち観光大使」(私もその一人)と改名され、「観光は是非とちかちへ」と全国にPRしています。

- ▼……ドキドキとワクワクが盛りだくさん
- ▼……自然がおりなす絶妙なコントラスト
- ▼……心まであったか!! 温泉めぐり
- ▼……食と美味しさの玉手箱(豚井が全国で有名に)

とちかちでしか味わえない、見て食べて、遊んで体験。癒し、心に残るとちかちの旅を楽しんでみてください。一度行って好きになり、

二度行くとまた行きたくなる十勝です。

【注1】「道」に次ぐ行政単位は「支庁」で計14支庁。十勝はその一つ。

【注2】依田勉三が組織した開拓団で、「帯広の開基」とされる。

【注3】そりを引きながら力や速さを競う競馬。ぼん(競)もえい(曳)も「引く」の意。



新緑の麦畑と日高山脈(筆者提供)



会員エッセイ

手まり

母の面影

楯 まゆみ(65)

(南か丘・南平台班)



くつろぎの時、私は音楽に耳を傾けることが多い。そういう時は

美しい音がゆるやかに流れるような曲を選んで聞いている。そうすると心がフワッと広がり、とても気持ちよくなる。時間がたつふりとれるときは、音楽を聞きながら手まりを作りたくなる。

「手まりを作っている時が一番楽しい」と、亡くなった母がニコニコしながらいつも言っていたのを思い出す。そんな母の面影をたどりながら糸をかかっていると、何故か思いのほか良い具合に仕上がってしまう。不思議だ。

手まり作りは母の趣味だったが、母が80歳を越えた頃「同じ趣味を持つたら喜んでもらえるのでは?」

と思うようになり、手ほどきをしてもらった。

最初は桜の柄。見よう見まねで糸をかがりながら初めて母と二人きりのゆったりとした時間を過ごすことができた。

手まり作りの面白さの一つに柄の豊かさがあげられる。四季折々の花々を中心に、幾何学模様からサンタクロースまで多種多様にあるので「あれも作りたい、これも作りたい。」とどんどん夢がふくらんでしまう。

こうして私にもようやく手まり作りの楽しさがわかり始めた頃、母は急に体調を崩し、86歳で旅立ってしまった。手まりだけがたくさん残った。自分が60代半ばになつてみて、「高齢の母が衰えていく体力にもめげずキチッとした手まりを作り続けるのは、どれだけ大変だったか」よくわかるようになった。「もっと思いやりを持って理解してあげれば良かった」とつくづく思う。

母の作った手まりからは気合の入った明るく力強い人柄が感じられて、私はとても元気づけられている。母が残してくれたものは、

投稿絵画

手まりだけではなく、そこに込められた母の人柄や生き方、まさに母の命の存在そのものだったと、手まりが気づかせてくれた。

「薔薇」 柳田京次氏画

(日野2班)



「少女」 太田照子氏画

(日野4班)



表紙の写真

作者は上記エッセイの筆者と同じ。手まりの写真と共にエッセイを寄せていただきました。

下の写真は表紙とは別の1枚。お母さんから教わって作った最初の手まりで、エッセイに出てきません。



俳句

佐藤弘子(百草台班)

安達太良山の影紫に稲の花

冬霞富士を立たせてものを焚く

有り体の心に添ふを患方とす

慈姑むく姑の威厳などなくて

橋脚の捌く水音や春近し



思い出の旅

名花咲く

「あしかがフラワーパーク」



市川勝正(74) (日野4班)

県天然記念物の大藤棚

数年前の5月連休明け、土曜日から日曜日にかけて親戚の招きで栃木県足利市の「あしかがフラワーパーク」を訪れました。足利市は2度目の訪問でした。

あしかがフラワーパークには、樹齢約140年敷の大藤棚が3本、世界でも珍しい八重の大藤棚が1本、長さ80mの白藤のトンネル、長さ80mのきばな藤のトンネル、庭木作りの藤など、見応えのある藤が300本。樹齢100年に及ぶ1500本のクルメツツジや数百種の花が咲き乱れています。大藤棚はいずれも栃木県の天然記念物に指定されています。

確かに大藤棚のライトアップ、フラワーファンタジー、光と花の庭、関東最大級130万球を超えるイルミネーションに彩られた幻想の世界でした。

その夜は、15代続く老舗の旅荘に落ち着き、家族と親戚の7名による宴席。老舗旅荘の14代目大女将の講釈を聞きながら、庭の夜景、純和風の料理に舌鼓。お酒は地酒の「北の郷物語」(栃木県佐野市の第一酒造)。もともと、酒の味

が分かりそうなのは私のみで、親戚の親父は下戸といえるほうです。ほろ酔い気分成熟、翌朝入浴後、食堂で朝食を取り新聞を読んでいると、右足の甲がチクリ。見ると体長20cmもある大ムカデが靴下を履いている右足の甲に取り付いていました。ビックリして払うと、百足も慌ててストラックスの中に入り込み、右足甲と膝小僧を刺さ

てしまいました。大女将が刺し傷から毒を搾り出し、常備薬のキンカンを塗り治療してくれましたが、右足甲と膝小僧はみるみる腫れて痛みが増してきました。娘がインターネットで



あしかがフラワーパークで市川夫妻

調べたところ、日本のムカデは百種ほどいるが、刺されても命に別状は無いとのことで一安心。

ムカデはのんべえ好き?

考えてみると「のんべえ」と折り紙のつく酒呑みは私のみで、他の宿泊客には呑み助はいなかったようです。私の身体から滲み出るお酒のエキスをムカデも好んだのでしょう。

ムカデは昔から「客足がつく、おあしが入る」などと言って、縁起が良い生き物とされています。旅荘を辞し、関東の高野山と言われる名勝地「行動山浄因寺清心亭」に向かいましたが、山門の

前で蛇が蛙を飲み込みながら横切るのを見ました。後日、撮った写真を見ると、右足の腫れも蛇もグロテクスです。

帰宅した時には痛みは引きました。1週間程で痒くなりましたが、その後は何ともありません。

ともあれ、ムカデ騒動はあったものの、老舗旅荘には満足しており、自然に囲まれた古(いにしえ)を思わせる雰囲気も良く、再度機会があればぜひ泊まってみてほしいですね。

あとがき

昨年、日本国内は集中豪雨という災害にみまわれ、各地で大きな被害が出ましたが、秋には3名の科学者がノーベル賞に輝くというニュースもありました。わが日野市SCでも、賠償事故や傷害事故が多く、その改善が今年にもちこされています。一方、日野本町班の金田さんが都SC安全大会において安全標語で入選、表彰されるという明るいニュースもありました。今年も、会員の皆様に明るく元気が出るような記事をたくさんお届けできることを願っています。

(今村 優)